

大宮理容美容専門学校 衛生専門課程 美容科 授業科目一覧表

※「年間授業時数」欄の数字をクリックすると該当する科目のシラバスにジャンプします。

課目区分		授業形態	授業課目	第1学年	第2学年	授業時数合計 [単位数]
				年間授業時数	年間授業時数	
必修課目	専門教育課目	講義	関係法規・制度	15	15	30 [1]
			衛生管理	30	60	90 [3]
			保健	30	60	90 [3]
			香粧品化学	30	30	60 [2]
			文化論	30	30	60 [2]
			美容技術理論	90	60	150 [5]
			運営管理	15	15	30 [1]
		実習	美容実習	480	420	900 [30]
選択課目	一般教養課目	講義	ビジネスマナー	30		30 [1]
			色彩学	60		60 [2]
		講義・実習	クリエイティブワーク	30		30 [1]
	専門教育課目	講義・実習	メイク技術	60		60 [2]
			ネイル技術	60		60 [2]
			和装技術	30	30	60 [2]
			サロンワークスキル	30	30	60 [2]
		講義	美容総合理論		60	60 [2]
		実習	美容総合技術		180	180 [6]
	必修課目授業時数計				720	690
選択課目授業時数計				300	300	600 [20]
卒業に必要な総授業時数				1020	990	2010 [67]

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	関係法規・制度（一）	課目 区分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	藤森（康）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履修 時期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 15 時 間履修
学 習 目 標	日本国の法制度の概要を理解するとともに、美容業に関わる衛生行政の理解を深める。そのうえで美容業に直結する「美容師法」について学習を進めていく。 「美容師法」については特にその制定目的・人に関する規定・施設に関する規定・違反者に対する処分等について理解を深める。						
使 用 す る テ キ ス ト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容師法・美容師法 関係法令集』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画 - 法制度の概要（1 時間） - 法とは何か ・ 法の形式 ・ 衛生法規 - 衛生行政の概要（1 時間） - 衛生行政 ・ 保健所 - 美容師法（12 時間） - 美容師法の目的 ・ 用語の定義 ・ 美容師試験 - 免許と登録 ・ 美容師の義務 ・ 管理美容師 - 美容所の開設 ・ 開設者の衛生措置 ・ 美容所以外での業務 - 立入検査 ・ 行政処分 ・ 罰則 - 総合学習（1 時間） - 期末考査の解説						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施。 出題方法は穴埋め問題（語群あり）と三択問題あるいは四択問題。						
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査の評点 5%はノート提出の評点 5%は出席状況や授業態度						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「美容師法」という美容師であれば必ず知っていなければならない法律を学習していきます。 関係法規・制度（一）では美容業に関わる法制度を大まかに理解してもらいます。授業進度は早いですがまずは法制度の全体図を把握するように心がけましょう。そして重要な箇所についてはきちんと覚えておくこと。 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。筆記具としてはマーカーペンを用意しておくことより学習がスムーズです。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	衛生管理（一）	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	森山
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 60 時間 履修
学 習 目 標	公衆衛生の意義と本質とを理解し、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生上の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。 美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、美容における衛生措置の重要性について理解すること。						
使用する テキスト	『衛生管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	1 編 公衆衛生 1 章 公衆衛生の概要 （7 時間） ・ 公衆衛生の意義と課題 ・ 公衆衛生発展の歴史 ・ 理容師と公衆衛生 ・ 保健所と理容業 2 章 保健 （8 時間） ・ 母子保健 ・ 成人高齢者保健 ・ 精神保健 2 編 環境衛生 1 章 環境衛生 （15 時間） ・ 環境衛生の概念 ・ 空気環境 ・ 衣服住居の衛生 ・ 上下水道と廃棄物 ・ 衛生害虫とネズミ ・ 環境保全						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期定期考査内で 45 分間の試験を実施する。 考査の結果、60 点未満の者は再試験を行う。 出題方法は、穴埋め問題と三択問題あるいは四択問題。						
成 績 評 価 方 法	定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。 但し、前期の成績にレポート点を 4～5 点含む場合がある。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	1. 公衆衛生、環境衛生についての知識をしっかりと覚え且つ身につけたために、環境衛生や保健、生活習慣病等に関するニュースには、国内外を問わず耳を傾けて情報を得、考える力を身につけ実践してほしい。 2. テスト前には、集中して勉強すること。 3. 筆記用具として、マーカーペン（黄色）を用意しておくことと学習がスムーズです。 4. 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	保健（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	氏家
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 60 時間 履修
学 習 目 標	美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得すること。 美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解すること。						
使用する テキスト	『保健』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	< 後期 30時間 > 1. 皮膚の構造 ・表皮、真皮、皮下組織 2. 皮膚付属器官の構造 ・毛 ・脂腺 ・汗腺 ・爪 3. 皮膚の循環器系と神経系 ・血管 ・リンパ管 ・神経 4. 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 ・対外保護 ・体温調節 ・知覚と皮膚反射 ・呼吸 ・吸収 5. 皮膚と皮膚付属器官の保健 6. 皮膚と皮膚付属器官の疾患						
試 験 の 実 施 方 法	後期末に期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	今の理美容業界においては、来店時のカウンセリングの重要性が高まっています。技術や理論だけでなく、頭皮や毛髪の状態へのケアに関する専門性が高い技術者になれるよう学んでいきましょう						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	香粧品化学（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	相 楽
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解するとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識すること。 また美容の業務を安全かつ効果的に行うために、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法に習熟し、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。						
使用する テキスト	香粧品化学（ 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第1編 香粧品総論 ・第1章 香粧品総論 4 時間 ・第2章 香粧品を使用する際に気をつけるべきこと 5 時間 ・第3章 香粧品の成り立ち 16 時間 ・その他 復習や小テスト 5 時間						
試 験 の 実 施 方 法	後期定期考査内で 45 分間の筆記試験を実施する。 試験は 95 点満点とし、0 点～5 点のノート、授業態度、出席状況を加えて 100 点満点とする。						
成 績 評 価 方 法	定期考査の点数をそのまま後期の評価とする。 後期のみの履修なので、後期評価が学年評価となる。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	（1） 香粧品やその取扱いについての知識をしっかりと覚えてほしいが、それに加えて化学的なものの見方や考え方を十分に身に付けましょう。 （2） 後期末にノート提出、授業中にしっかりとノートを取りましょう。 （3） 復習は十分にしましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	文化論（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	長谷川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。 美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	『文化論』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画 1. ファッション文化史 西洋編 （合計22時間） ・ 古代エジプト ・ 古代ギリシャ ローマ ・ 古代ゲルマン ・ 中世ヨーロッパ ・ 近世Ⅰ 16世紀 ・ 近世Ⅱ 17世紀 ・ 近世Ⅲ 18世紀 ・ 近代Ⅰ ・ 近代Ⅱ 19世紀 ・ 現代Ⅰ ・ 現代Ⅱ （1時間） ・ 現代Ⅲ ・ 現代Ⅳ 1960年代 ・ 現代Ⅴ 1970年代 ・ 現代Ⅵ 1980年代 ・ 現代Ⅶ 2. 礼装の種類 （合計6時間） ・ 和装の礼装 ・ 洋装の礼装 3. 1年次のまとめ（合計2時間） ・ テスト返却も含む ・ 小テスト						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の点数						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「文化論」という、美容師として、さまざまな髪型、化粧、服装などの返還流行を学習していきます。 流行は一人歩きするものではなく、必ず社会背景や時代の要請と結びついています。 流行のメカニズムを知り、時代を読み、デザインを起こすためのヒントになるような講義を行っております。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	美容技術理論（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	安住
単 位 数 （ 時 間 数 ）	3単位 (90 時間)	履 修 時 期	1 年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 60 時間 履修
学 習 目 標	美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い身に付けること。 美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な正しい取り扱いの方法と 美容の基礎技術を作業の実践を通して学び、これに習熟すること。 あわせて、美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。 優れた美容技術は正しい理論に裏付けられて成立することを理解すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	美容技術理論 1（公益社団法人日本理容美容教育センター） 美容技術理論 2（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間：1 章 ～ 12 章まで < 前期 45 時間 > 序章 美容技術を学ぶにあたって 1 章 美容用具 2 章 シャンプーイング 3 章 ヘアデザイン 4 章 ヘアカットイング 5 章 パーマネントウェーブ 6 章 ヘアセッティング < 後期 45 時間 > 7 章 ヘアカラーリング 8 章 エステティック 9 章 ネイル技術 10 章 メイクアップ 11 章 日本髪 12 章 着付け技術						
試 験 の 実 施 方 法	・前期末、後期末にそれぞれ期末考査を実施 ・出題方法は穴埋め問題（語群あり）、三択・四択問題、書き込み、○×問題						
成 績 評 価 方 法	・期末考査の評点 ・90%は期末考査、10%は授業態度・出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	・技術理論は技術を学ぶ上でかせない重要な科目です。また、美容師としてお客様に支持されるためにも知っておかなければならない知識です。しっかり理解し、実習や実践にも生かせるように学んでいきましょう。 ・ノートや、教科書を見やすくするために、色ペンやマーカーペンを持参してください。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	運営管理（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	齋藤
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	2 年次でも 15 時間 履修
学習目標	経営管理及び労務管理の基本的事項を学習し、美容業における運営管理手法の重要性を認識し、美容所の運営に役立たせること。 美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚するとともに、消費者対応の基本を学び、実践する能力を身に付けること。						
使用する テキスト	『運営管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授業計画	年間の授業計画（合計 15 時間） 1. 第 1 編 経営者の視点（8 時間） ・経営とは、経営者とは ・理容業、美容業の経営について ・資金の管理 2. 第 2 編 人という資源 従業員としての視点（6 時間） ・人という資源（第 1 章のみ） 3. 1 年次の運営管理のまとめ（1 時間） ・選択問題、穴埋め問題等での復習						
試 験 の 実施方法	期末考査を実施 出題方法は穴埋め問題と○×問題、記述式選択問題 等						
成績評価 方 法	期末考査の採点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「運営管理」という良い美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り、発展させていく取り組みを学習していきます。 経営者の視点を理解し、良いサービスを実現したいという経営者の努力を理解できるようになれば、自らがどのように行動すべきか分かります。 それは、皆さんの視野を広げ、顧客や社会の為の仕事を担当する責任を理解し、より有能な美容師として活躍するための、大きな知恵になるはずです。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	美容実習（一）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	相楽 安住
単 位 数 （ 時 間 数 ）	16 単位 (480 時間)	履 修 時 期	1 年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	2 年次でも 420 時間 履修
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
美容師として美容室に勤務していた教員が、実際に美容室で行われているカット等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。 美容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒の適切な方法を身に付けること。 提案力、対応力を身に付けられるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。						
使用する テキスト	美容実習 1 （公益社団法人日本理容美容教育センター） 美容師実技試験課題「技術の解説」						
年 間 の 授 業 計 画	※後期で 15 時間まつエクあり < 前期 255 時間 > ・施術の際の基本姿勢 10 時間 ① ブラッシングの目的から施術 ② タオルターバン・コームの使い方 ・ワインディング 145 時間 ① ブロッキング ② 上巻き下巻き ③ オールパーパス巻き オールパーパス・・・カリキュラムテスト実施 2 回 ・シャンプーイングの目的から施術 30 時間 ① サイドシャンプー ② バックシャンプー ・パーマネントウェーブの目的と施術（ウィッグにパーマネントウェーブ施術） 20 時間 ・創作ウィッグ作成（自由発想、創意工夫、色彩、全体のバランス感覚） 50 時間 ① カットイング ② カラーリング ③ セットイング < 後期 225 時間 > ・まつ毛エクステエクステンション 15 時間 ・オールウェーブセットイング・・・カリキュラムテスト実施 2 回 90 時間 ① ハーフウェーブ、リッジ ② ピンカール ③ 課題構成 ・実務実習（サロン体験） 30 時間 ・国試課題ワインディング（スタイル構成の理解と実技） 50 時間 ・シャンプーイング（バックシャンプー、サイドシャンプー） 20 時間 ・ベーシックカットイングの理解とウィッグで施術 20 時間						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期ごとにカリキュラムテストを実施（技術チェック）						
成 績 評 価 方 法	80%は実技試験（カリキュラムテストの合計平均点） 20%は授業態度、取り組み方、衛生、出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	忘れ物が無いか事前に確認し、時間に余裕をもって行動をしましょう。 配布資料と筆記用具も忘れずに。また、道具や用具類などは、常に清潔に整理整頓し作業のしやすい状況に心がけ、正確に、綺麗に、スピードアップを図っていきましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	ビジネスマナー	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	阿見
単 位 数 (時間数)	1 単元 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	社会人としての基本的なルールやマナー、また、一般常識について学び理解する。 正しい動作や言葉づかい、接客や電話対応の基礎について学び、それらを身につけることによって、社会に出てどのような職種に就いたとしても対応できるようになる。						
使用する テキスト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第1章 社会人としての基本（4時間） 1 職場でのモラル 2 職場での身だしなみ 3 職場での人間関係 第2章 正しい動作（5時間） 1 あいさつ 2 基本動作 3 実践トレーニング 第3章 言葉づかい（5時間） 1 話し方、聞き方 2 敬語 3 人の呼び方 4 実践トレーニング 第4章 接客の基礎（5時間） 1 接遇 2 接客対応 3 実践トレーニング 第5章 電話対応の基礎（5時間） 1 電話の受け方 2 電話のかけ方 3 実践トレーニング 第6章 一般常識（4時間） 1 名刺交換、紹介、訪問、座席の順序 2 冠婚葬祭 総合学習（2時間）						
試 験 の 実 施 方 法	授業内で試験を実施						
成 績 評 価 方 法	試験の点数が 60% 授業態度、出席日数が 20% 小テストが 20% 評価基準に満たない場合は課題を与え評価とする						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	ビジネスマナーは、あらゆる職業において基礎となるものです。マナーができていなければ人として信用されませんのでしっかり学んで実践してください。 社会は様々な年齢層の人たちとのかかわりで成り立っていますので、正しいマナーを理解して自分のものとするといでしょう。						

大宮理容美容専門学校

11

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	クリエイティブ ワーク	課 目 区 分	選択一般 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	大 草
単 位 数 (時間数)	30 時間	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	1 年次のみ履修
学 習 目 標	ビューティクリエーターにとって ”モノの本質を極める目を養う” 事はとても重要です。人体頭部の骨格・筋肉・シワなどの理解に即した表現が出来、またバランスの取れた表現技法を習得する事が重要です。当初は顔のパーツがしっかりと表現できる様に指導をし、後半部分には学内文化祭に向けてのヘアーデザイン画の集大成として取り組んでいきます。						
使用する テキスト	自前参考テキスト						
年 間 の 授 業 計 画	基礎講義 ：鉛筆の削り方、持ち方、筆圧の調整、点・線・面の理解、光と影（陰）の理解、デッサンとは 基礎演習 ：鉛筆によるグラデーション制作 表現演習 -1 ：人体頭部の理解及び表現（顔のパーツの特徴及び表現方法） 1：目の描き方及び目の周辺の捉え方 2：鼻の描き方及び目の周辺の捉え方 3：口唇の描き方及び目の周辺の捉え方 4：耳殻の描き方及び目の周辺の捉え方 5：髪の毛の描き方及び各ヘースタイル画の挑戦 表現演習 -2 ：ヘアーデザイン画への作品作り						
試 験 の 実 施 方 法	試験は実施しませんが、各課題提出物や授業態度などで評価を行う。						
成 績 評 価 方 法	90%は各課題提出物の評価 10%は授業態度や授業に対する意欲、出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めて本格的な絵を描くという学生がいると思いますが、鉛筆の削り方、持ち方から始め人体頭部構造の理解と共に表現技術を習得する事です。感性と共に ”観性” を磨く事が自分のスキルアップにつながっていきます。 疑問に思う事や分からない事があれば是非、積極的に申し出て下さい。良きアドバイスが出来ると思います。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	メイク技術	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	相楽 長谷川
単 位 数 （時間数）	2単位 （60時間）	履 修 時 期	1年次 前期	授 業 方 法	講義 実習	備 考	1年次のみ履修
学 習 目 標	メイクアップは生身の「人間」に対して行う、装飾的な表現であることを理解する。 皮膚や骨格、筋肉などの印象に大きな影響を与え、色とトーン、質感のイメージについても知っておく必要がある。 色彩心理学による人間の感情変化について知ること、メイクアップ効果は大きく違いをすること、さらには、人の性格を外面でとらえる見方を学び、目的に合った顔づくりや見せたい印象を理論と実技で基礎を学び身に付けること。						
使用する テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト 3級2級（社団法人 JMA）						
年 間 の 授 業 計 画	前期 （60時間） メイクアップ3級検定 （33時間） 1 メイクアップを学ぶにあたって 2 3級テーブルセッティング 3 スキンケア 4 ベースメイクアップ メイクアップ3級検定の一連の流れ（30分間） メイクアップ2級検定 （27時間） 5 2級検定テーブルセッティング 6 スキンケア 7 ベースメイクアップ 8 アイメイクアップ 9 リップメイクアップ 10 メイクアップ2級検定の一連の流れ（50分間）						
試 験 の 実 施 方 法	メイクアップ3級検定（30分間） 技術チェック メイクアップ2級検定（50分間） 技術チェック 合格ラインまで達しない場合は何度か技術チェックを行い、平均レベルまで上げる						
成 績 評 価 方 法	80%は衛生・実技内容 20%は授業態度、取り組み方、出席状況						
学 生 へ の メ ャ ッ セ ー ジ	忘れ物が無いか事前に確認し、時間に余裕をもって行動をしましょう テキストを読んで知識を増やす、確認をして繰り返し練習しましょう。 メイクアップの上達の秘訣はそれしかありません。 基礎をマスターして、沢山の肌に触れ美しさを引き出して、表情までも輝かせましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	ネイル技術	課 目 区 分	選択一般 教育科目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	中川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2 単位 （60 時間）	履 修 時 期	1 年次 前期	授 業 方 法	講義 実習	備 考	1 年次のみ履修
学 習 目 標	ネイルケアを学び、技術面だけでなく、ネイルに関する正しい知識を理解すること。 JNEC 日本ネイリスト協会 3 級に合格するために、安全で適切な知識を理解すること。						
使用する テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック（NPO法人日本ネイリスト協会）						
年 間 の 授 業 計 画	1. 実技 ・ テーブルセッティング ・ 手指消毒 ・ ポリッシュオフ ・ ファイリング ・ クリーンナップ ・ カラーリング ・ フラットアート ・ 通し練習 ・ 模擬試験 2. 学科 ・ 基礎理論 ・ 確認テスト ・ 模擬試験						
試 験 の 実 施 方 法	検定前の、授業時間内に模擬試験（実技・学科）を実施 内容は、JNEC日本ネイリスト協会検定3級と同等のもの						
成 績 評 価 方 法	・ 実技試験 60% ・ 学科試験 30% ・ 授業態度 10%						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では、日本ネイリスト技能検定試験3級を取得することを目標にしています。 楽しく学び、基礎技術、基礎知識を身に着けるための繰り返しのトレーニングを行います。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	和装技術（一）	課 目 区 分	選択専門 教育科目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	中川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	1 年次 後期	授 業 方 法	講義 実習	備 考	1 年次のみ履修
学 習 目 標	・ 結い上げの技術を習得する ・ 着物のいろいろを学び、着付け技術を習得する						
使 用 す る テ キ ス ト	美容理論 2（日本理容美容教育センター） 美容実習 2（日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	○ アップスタイル （15 時間） 1. 基礎技術 2. アレンジヘア 3. 夜会巻き 4. 新日本髪 ○ 着付け技術 （15 時間） 1. 所作・着物各部の名称・着物のたたみ方 2. 普段着用の着付け（ボディ使用） 補整・長襦袢の着付け方（二部式） 3. 小紋の着付け 帯結び・・・半幅帯び（文庫結び） 名古屋帯（お太鼓） 袋帯（二重太鼓）						
試 験 の 実 施 方 法	アップスタイル 授業内実施テスト（新日本髪等） 着付け技術 授業内実施テスト（着物着付け）						
成 績 評 価 方 法	新日本髪結い上げ試験 40% 着付け帯結び試験 40% 授業態度 20%						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	結い上げの基礎から学び、アレンジヘアや、和装アップスタイルを学びます。 着物着付け実習を通じて、日本の伝統文化にふれ知識を身に付けていきましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	サロンワークスキル (一)	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	渡 邊
単 位 数 (時 間 数)	1単位 (30 時間)	履 修 時 期	1 年次 後 期	授 業 方 法	講義・ 実 習	備 考	2 年次でも 30 時間 履修
学 習 目 標	課目「ビジネスマナー」で学んだことを基礎として、美容所における接客やスタッフとの連携作業等の実際のサロンワークについて学び、講義・実技・実習（ロールプレイング等）を通じて美容アシスタントとして求められる技術を習得すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容・美容カウンセリング』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	授業計画 （合計30時間） 1. 美容室におけるビジネスマナー (1) 接客 (2) 電話対応 2. カウンセリング (1) 概論 (2) 毛髪・皮膚コンサルティング (3) パーマ、カラー前のコンサルティング 3. アシスタントワーク (1) パーマの準備とヘルプについて (2) カラーの準備とヘルプについて 4. チラシ、POPの作り方 (1) POPの作成 (2) チラシの作成 5. 実習 日々の練習はウィッグなので、人に対する施術で気を付けることを習得する 内容については担任の先生方と相談の上決定する						
試験の 実 施 方 法	・ 授業内で試験を実施 「美容室において来店からおかえりになるまでの接客対応」						
成 績 評 価 方 法	・ 60%は授業内での試験の採点 ・ 20%は作品の評価点 ・ 20%は出席状況と授業態度点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では、ビジネスマナー等で学習した知識を復習しさらに実践することで、皆さんが、実社会に出た時に戸惑うことなく行動できることを目標としています。 「知っている。」だけではなく、「自然とできる。」を目指し、社会人としての準備段階にいる皆さんにとって役立つ時間となるよう願っています。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	関係法規・制度（二）	課目 区分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	藤森（康）
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履修 時期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 15 時間 履修
学 習 目 標	美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解し、あわせて、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚すること。 美容の業務に関する規定内容を正確に理解するとともに、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握すること。						
使用する テキスト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『美容師法令集』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	1. 関係法規・制度（一）の学習の確認（11 時間） ・ 法制度の概要 ・ 衛生行政の概要 ・ 美容師法 2. 関連法規（3 時間） ・ 生活衛生関係営業の運営の適正化及び進行に関する法律 ・ 株式会社日本政策金融公庫法 ・ 労働基準法 ・ 労働安全衛生法 ・ 地域保健法 ・ 消費者基本法 3. 総合学習（1 時間） ・ 期末考査の解説						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施。 出題方法は○×問題と四択問題。						
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査の評点 5%は小テストの評点（授業では単元ごとに小テストを実施します） 5%は出席状況や授業態度						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「美容師法」中心とした美容業に関わる各種の法制度を学習していきます。 関係法規・制度（一）においてインプット形式で学習した内容を、アウトプット形式で学習し理解を深めていくことに加え、「美容師法」に限定されない、美容業に関連する法規を幅広く学習していきます。 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。筆記具としてはマーカーペンを用意しておくことより学習がスムーズです。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	衛生管理（二）	課 目 区 分	必修専門教 育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	森山
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で 30 時間 履修
学 習 目 標	公衆衛生の意義と本質とを理解し、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解すること。特に生活衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解すること。 美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視し、美容における衛生措置の重要性について理解すること。特に、美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であり、その意義と原理について十分に理解するとともに、その適正な実施方法を身に付けること。						
使用する テキスト	『衛生管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	3編 感染症 1章 感染症の総論 （15時間） 2章 感染症の各論 （15時間） 4編 衛生管理技術 （20時間） 1章 消毒法総論 2章 消毒法各論 3章 消毒法実習 5編 衛生管理の実践例 （5時間） 1章 美容所における衛生管理要領 2章 美容所の自主管理点検表 総まとめ（5時間）						
試 験 の 実 施 方 法	前期、後期定期考査内で 45 分間の試験を実施する。 考査の結果、60 点未満の者は再試験を行う。 出題方法は、穴埋め問題と三択問題あるいは四択問題。						
成 績 評 価 方 法	定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。 但し、前期の成績にノート提出点を 0～5 点含む場合がある。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	1. 感染症、消毒法についての知識をしっかりと覚えるため、国内外の感染症に関するニュースには耳を傾け、予防や消毒を実践できるようにしてほしい。 2. 理解しやすいように工夫を重ね板書しているので、ノートを取ってほしい。 3. テスト前には、集中して勉強すること。 4. 筆記用具として、マーカーペン（黄色）を用意しておくとう学習がスムーズです。 5. 授業では教科書とノートに加え配布プリントを必ず持参しましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	保健（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	氏家
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次で30時間 履修
学 習 目 標	人体について皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する知識を習得させる。 また、美容の業務を安全かつ効果的に行えるよう皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識を理解させる。						
使用する テキスト	『保健』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	< 前期 30 時間 > 【第1編 人体の構造及び機能】 1. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・ 人体各部の名称 ・ 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2. 骨格器系 ・ 骨の種類と構造 ・ 骨の連結 ・ 骨格器系とそのはたらき 3. 筋系 ・ 筋の種類とその特徴 ・ 主な骨格筋とそのはたらき ・ 表情筋と表情運動 ・ 理容・美容の作業と疲労筋 4. 神経系 ・ 神経系の成り立ち ・ 中枢神経とそのはたらき ・ 末梢神経とそのはたらき 5. 感覚器系 ・ 視覚 ・ 聴覚 ・ 平衡感覚 ・ 味覚 ・ 嗅覚 ・ 皮膚感覚 6. 血液・循環器系 ・ 血液のあらまし ・ 血液循環の仕組み ・ 血液の循環経路 ・ 心臓と血管のはたらき ・ リンパ管系の仕組みとはたらき 7. 呼吸器系 ・ 呼吸器系のあらまし ・ 気道 ・ 肺の仕組みとガス交換 ・ 呼吸運動 8. 消化器系 ・ 消化器系のあらまし ・ 消化器系の仕組み ・ 消化管のはたらき ・ 消化と物質代謝 < 後期 30 時間 > 第2編皮膚科学（1年次履修）とあわせ国家試験に向け総合的に復習						
試 験 の 実 施 方 法	各期末に定期考査を行ない6割以上の正答率を以て合格とする 不合格者に対しては再試験を実施する 出題範囲は前期は1編1～5章（進行状況で変更の可能性あり。その場合は前もって事前告知する。） 後期末は1編2編すべてとする						
成 績 評 価 方 法	前期&後期ともに定期考査の点数をそのまま評価とする						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	美容師はお客様の身体に直接触れる職業なので、事故や疾病を予防するためにも感染症（衛生管理第3編）とあわせよく理解しましょう。 また、美容師法が保健医療従事者資格法に位置付けられている意義を認識しましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	香粧品化学（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	相 楽
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	2 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間履修
学 習 目 標	香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解するとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識すること。 また美容の業務を安全かつ効果的に行うために、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法に習熟し、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。						
使用する テキスト	香粧品化学（ 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	第2編 香粧品各論 後期（30 時間） 第1章 スキンケア製品 （6 時間） 第2章 メイクアップ製品 （4 時間） 第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ\$及びスカルプケア製品 （10 時間） その他 復習、第1編、第2編のまとめと小テスト （10 時間）						
試 験 の 実 施 方 法	後期定期考查内で 45 分間の筆記試験を実施する。 試験は 95 点満点とし、0 点～5 点のノート、授業態度、出席状況を加えて 100 点満点とする。						
成 績 評 価 方 法	定期考查の点数をそのまま後期の評価とする。 後期のみの履修なので、後期評価が学年評価となる。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	（1） 香粧品やその取扱いについての知識をしっかりと覚えてほしいが、それに加えて化学的なものの見方や考え方を十分に身に付けましょう。 （2） 後期末にノート提出、授業中にしっかりとノートを取りましょう。 （3） 復習は十分にしましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	文化論（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	長谷川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 （30 時間）	履 修 時 期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 30 時間 履修済
学 習 目 標	美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養うこと。 美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚すること。						
使 用 す る テ キ ス ト	『文化論』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	年間の授業計画（合計 30 時間） - 日本の理容業・美容業の歴史 （2 時間） - 理容業・美容業の発生 ・江戸、近代、現代の理容業・美容業 - ファッション文化史 日本編（18 時間） - 縄文、弥生、古墳時代 ・飛鳥、奈良、平安時代 - 鎌倉、室町、戦国時代 ・安土桃山時代 - 江戸時代 ・明治、大正、昭和 20 年まで 1945～1950 年代 ・1960～1970 年代 1980～1990 年代 ・2000 年代以降 - 国試出題範囲の文化論のまとめ（10 時間） 日本のファッション文化史（明治時代以降の服装、髪型） 礼装の種類（和装、洋装） - 国家試験に向けての対策問題等 小テスト - テスト返却も含む						
試 験 の 実 施 方 法	期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の点数						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「文化論」という、美容師として、さまざまな髪型、化粧、服装などの返還流行を学習していきます。 流行は一人歩きするものではなく、必ず社会背景や時代の要請と結びついています。流行のメカニズムを知り、時代を読み、デザインを起こすためのヒントになるような講義を行っております。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	美容技術理論（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	山本
単 位 数 （ 時 間 数 ）	2単位 （60 時間）	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	1年次でも90時間 履修
学 習 目 標	美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けること。 美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して学び、これに習熟すること。あわせて、美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶこと。 優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを十分に理解すること。						
使用する テキスト	美容技術理論1・2（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（30 時間） 序章 美容技術理論を学ぶにあたって 第1章 美容用具 第2章 シャンプーイング 第3章 ヘアデザイン 第4章 ヘアカットング 第5章 パーマネントウェービング 第6章 ヘアセッティング 第7章 ヘアカラーリング 第8章 エステティック 第9章 ネイル技術 第10章 メイクアップ 第11章 日本髪 第12章 着付けの理論と技術 ・美容技術理論教科書1・2のまとめ、各章の小テスト、ワークブック等練習問題 後期（30 時間） ・美容技術理論教科書1・2のまとめ、ワークブック等練習問題 ・各章の小テスト、国家試験過去問題、模擬問題等						
試 験 の 実 施 方 法	前後期定期考査内で筆記試験（45 分間）を実施 穴埋め問題、4 択問題、○×問題等						
成 績 評 価 方 法	90%は期末考査の評点 10%は授業内小テスト・提出物・出席状況・授業態度などの平常点による評点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	美容技術の向上には技術理論の理解は欠かせません。 日々の授業をしっかりと受け、広い内容を取りこぼすことのないように細かく復習をしていくことが大切です。 問題をただ解くだけでなく直しを丁寧にしていくと、より理解を深められるでしょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）						大宮理容美容専門学校	
課 目 名	運営管理（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	齋藤
単 位 数 （ 時 間 数 ）	0.5 単位 （15 時間）	履 修 時 期	2 年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	1 年次で 15 時間履 修
学習目標	経営管理及び労務管理の基本的事項を学習し、美容業における運営管理手法の重要性を認識し、美容所の運営に役立たせること。 美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚するとともに、消費者対応の基本を学び、実践する能力を身に付けること。						
使用する テキスト	『運営管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授業計画	年間の授業計画（合計 15 時間） - 第 2 編 人という資源 従業員としての視点 （8 時間） - 健康、安全な職場環境の実現 - 従業員としての視点から - 顧客のために （2 時間） - サービス デザイン - マーケティング - サービスにおける人の役割 - 国試出題範囲の運営管理のまとめ（5 時間） - ワークブック等の復習 - 過去問題等の復習 - 選択問題等での復習 - 理美容業の経営環境 - 資金管理 - 年金保険 - 医療・介護保険 - 労働関係法規						
試 験 の 実施方法	期末考査を実施 出題方法は穴埋め問題と○×問題、記述式選択問題 等						
成績評価 方 法	期末考査の採点						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	本講義では「運営管理」という良い美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り、発展させていく取り組みを学習していきます。 経営者の視点を理解し、良いサービスを実現したいという経営者の努力を理解できるようになれば、自らがどのように行動すべきか分かります。 それは、皆さんの視野を広げ、顧客や社会の為の仕事を担う責任を理解し、より有能な美容師として活躍するための、大きな知恵になるはずです。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	美容実習（二）	課 目 区 分	必修専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	山本 長谷川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	14単位 (390時間)	履 修 時 期	2年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	1年次で 510 時間 履修
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
美容師として美容室に勤務していた教員が、実際に美容室で行われているカット、ヘアセット等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得すること。 美容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けること。 個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けること。						
使用する テキスト	美容実習１・２（公益社団法人 日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（310時間） ・ 国家試験ワインディングの工程 ・ 国家試験オールウェーブの工程 ・ 国家試験カッティングの工程 ・ シャンプーイング実技 ・ ブローセッティング実技 ・ アイロンテクニック実技（カールアイロン・ストレートアイロン） ・ ヘアアレンジスタイル実技 ・ ヘアカラーリング実技 ・ 創作ネイル作成 後期（79時間） ・ まつ毛エクステンション実技と理論 ・ 国家試験課題内容の実技 ・ 国家試験衛生内容の実技 ・ ベーシックカット ～ 応用スタイルの実技 ・ サロンスタイル ～ 応用スタイルの実技						
試 験 の 実 施 方 法	前期： 国家試験ワインディング、オールウェーブの技術チェック 後期： 国家試験課題内容と国家試験衛生内容のチェック						
成 績 評 価 方 法	60%は各技術内容の評点平均 20%は出席状況 20%授業意欲・授業態度・衛生等						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	忘れ物がないように準備し、集中して取り組めるようにしましょう。 実技には反復練習が必須です。 常に国家試験を意識しながら、衛生にも配慮していくことが大切です。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	和装技術（二）	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	山本
単 位 数 （ 時 間 数 ）	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	2 年次 前期	授 業 方 法	講義 実習	備 考	1 年次で 30 時間 履修
学 習 目 標	日本髪のかぶり技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術についての理論を学び、実習を通じて技術を身に付けること。						
使用する テキスト	美容実習 2（公益社団法人理容美容教育センター） 美容理論 2（公益社団法人理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（30時間） 着付け技術 1、小紋の着付け（ウィッグ・相モデル） ・補正 ・長襦袢の着付け方 ・衿の着物の着付け方 ・名古屋帯の結び方 2、準礼装の着付け（ウィッグ・相モデル） ・補正 ・長襦袢の着付け方 ・衿の着物の着付け方 ・二重太鼓の結び方 3、礼装の着付け（ウィッグ・相モデル） ・留袖 ・振袖 ・帯結び（文庫系・お太鼓系・立矢系・アレンジ） 4、小物のアレンジ ・帯揚げ ・帯締め 5、着付け技術工程の理論 ・着物や帯の種類名称、小物道具の名称 ・手順						
試 験 の 実 施 方 法	着付けは補整から衿の着物・帯は二重太鼓結び 40 分 着付けは補整から振袖の着物・帯は帯結び 50 分 着付け技術工程の理論内の筆記試験						
成 績 評 価 方 法	40%は各着付け技術の評定平均 20%は筆記試験の評点 20%は出席状況 20%は授業意欲、授業態度等						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	授業を通して、着付けだけではなく所作や歴史・髪型等も学習していきます。 日本伝統の理解と、着物の良さや体型によって着付けの違いを知り、着物に親しみ馴染んでいきましょう。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	サロンワークスキル (二)	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	安住
単 位 数 (時 間 数)	1 単位 (30 時間)	履 修 時 期	2 年次 通年	授 業 方 法	講義・ 実習	備 考	1 年次で 30 時間履 修
学 習 目 標	課目「ビジネスマナー」や1年次のサロンワークスキルで学んだことを基礎として、美容所における接客やマナー、スタッフとの連携作業等、実際のサロンワークに必要な知識を身につけるとともに、実践的な技術にも挑戦し、即戦力として求められる人材を目指し、実習等を通して習得すること。						
使用する テキスト	美容実習1（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	前期（15 時間） - ブロー・アイロン操作 ・用具の使い方 ・スタイルブロー - カッティングスタイル実技 ・ワンレングス、レイヤー、グラデーションの応用 ・展開図の書き方 ・カットからスタイリングまでの流れ - バックシャンプー ・工程確認 ・スターリングの仕方 後期（15 時間） - パーマネントウェーブ実技 ・スタイル巻き - カラーリング ・ホイルワーク ・オンカラーの実践 - ヘッドスパ ・目的や効果について ・マッサージの基本手技 ・頭、腕、手のツボ						
試 験 の 実 施 方 法	特に試験は行いませんが、授業内で評価をしていきます。						
成 績 評 価 方 法	80%は実技内容 20%は授業態度・取り組み方・出席状況						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	美容所に従事して、必要とされる技術内容の習得と心構えを理解し、失敗を恐れず、様々な技術に挑戦し、実践できるように努力していきましょう。また、即戦力となれるよう少しでも多くのことを学んで欲しいと思います。 ※忘れ物をしないように注意してください。						

2024年度 授業概要（シラバス）							大宮理容美容専門学校
課 目 名	美容総合理論	課 目 区 分	選択専門 教育課目	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	阿見芳明
単 位 数 (時間数)	2単位 (60時間)	履 修 時 期	2年次 後期	授 業 方 法	講義	備 考	
学 習 目 標	美容師が美容技術の専門家であるとともに、地域の保健衛生の担い手でもあることを自覚し、これまで必修課目で学習を進めてきた各教科について、その関わり合いを認識し、横断的な学習を行うことで、各教科科目についてのより深い理解を進める。						
使用する テキスト	『関係法規・制度』『運営管理』『衛生管理』『保健』『化粧品化学』『美容技術理論Ⅰ』『美容技術理論Ⅱ』『文化論』『ワークブック』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	1. 教科科目の関連性（6時間） 各教科の内容について横断的な理解を深める 2. 学習内容の確認（6時間） これまでの学習についての理解の確認を行う 3. 総合演習（42時間） 演習問題による総合的な学習を行う 4. 模擬試験（6時間） 成績評価に必要な試験を実施する						
試 験 の 実 施 方 法	授業時間内に2回模擬試験を実施する。 2回の試験の集計結果が60点に満たない学生には課題を与え、課題をクリアした者は60点として扱う。						
成 績 評 価 方 法	上記試験の結果をもって成績評価とする。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	これまでの学習の振り返りを行いながら、その関連性について理解を深めていきます。 例えば、「関係法規・制度」で学習した法律が「運営管理」でどう活きるのか、「化粧品化学」で学習した薬剤が「技術理論」でどう使われるのかなどを学習するということです。 学習の多くは演習問題形式で進めていきますが、問題は解くことに意味があるわけではありません。理解の確認をしたうえで、理解の不足している点についてさらに学習を進めていくことが大切です。						

2024年度 授業概要（シラバス） 大宮理容美容専門学校							
課 目 名	美容総合技術	課 目 区 分	実習	対 象 学 科	美容科	担 当 教 員	山本 長谷川
単 位 数 （ 時 間 数 ）	6単位 （180 時間）	履 修 時 期	2 年次 通年	授 業 方 法	実習	備 考	
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
美容師として美容室に勤務していた教員が、実際に美容室で行われているカット等の技術を取り入れた授業を行う。							
学 習 目 標	必修課目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身に付けるとともに、美容デザインの最新の国際的動向について学ぶこと。 常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付け、専門技術者としての心構えを身に付けること。						
使 用 す る テ キ ス ト	美容実習 1・2（公益社団法人 日本理容美容教育センター） 美容理論 1・2（公益社団法人 日本理容美容教育センター） 美容師実技試験課題「技術の解説」						
年 間 の 授 業 計 画	前期（70 時間） ・技術コンテスト（オールウェーブ）対策 ・ベーシックカットの見直し（ワンレングス・グラデーション・レイヤー等） ・応用アイロンテクニックでスタイル作成 ・ヘア、メイク、ファッションのトータルビューティー作品の創作 ・藤森フェスタ 後期（110 時間） ・創作アレンジ、アップスタイル ・国家試験科目の課題種目の強化（ カット・ワインディング・オールウェーブ）						
試 験 の 実 施 方 法	前期：校内コンテスト（オールウェーブ技術） 後期：実技模擬試験（1 回目・2 回目）						
成 績 評 価 方 法	60%は各技術試験の評定平均 20%は出席状況 20%は授業意欲・授業態度・生活態度・衛生実技等						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	国家試験内容レベル向上、コンテスト出場、藤森フェスタにおけるヘアショー等においての技術接客での協調性、創造性、デザイン性、自主性など技術だけでなく、人間性も磨きスキルアップが出来て楽しみながら学んでいきましょう。						